

## 6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校では、(1)知性の向上、(2)品性の向上、(3)信頼される学校づくりの3つの観点から重点目標を設定し、学校経営に係る課題に取り組んだ。

- (1) 知性の向上に関しては、生徒の家庭学習時間調査と指導、及び教員の授業改善の両面から取り組んだ。前者は、学習の基礎・基本の定着及び生徒個々の主体的な学習態度の育成を目指した。後者は、教員がそれぞれの教科で「主体的・対話的で深い学び」の実践とICT機器を活用した学習指導の向上を図った。

この結果、前者では、教科や学科が行う小テストや資格検定等の指導が、生徒の達成感や自信に繋がるという点で有効であった。しかし、断片的な知識の詰め込みでは持続的な効果を生まない反省点もある。また、授業アンケートによると、生徒は授業を概ねわかりやすいと感じる一方で、達成感を得る割合は低い結果であった。短期記憶の詰め込み型学習から思考力を磨く学習意識の改善は、今後も問い続けねばならない大きな課題である。

後者では、昨年度からの継続で「ICT教育推進事業校」として、ICT機器の活用については、全教員を対象とした校内研修の実施やICTを活用した授業展開、9月の分散登校時のオンライン授業、学校行事での利用等を行った。また、互研授業週間や学校訪問では、研究授業を実施し、研究授業の参観や事後研修会の実施によってすべての教員間で活用についての研究を進めた。

- (2) 品性の向上に関しては、「安全安心に過ごせる氷見高校社会」の視点で、生徒と個々の面談及び全校集会等の機会をとらえて本校生徒としての所属意識と矜持を意識化し、社会規範を遵守する心の育成と自律的態度の向上を目指した。今年度は昨年同様のコロナ禍の中、学校行事や課外活動、各種大会等の縮小・中止の中で、生徒の主体的な参加を促す運営を行うことで生徒の満足度を得ることができた。主体的な活動の中で自己有用感を高め、本校への所属意識を高めた結果が高い満足度に繋がったと考える。また、ルール、マナーに関する生徒の意識調査では、昨年度同様高いレベルの結果となっている。
- (3) 信頼される学校づくりに関しては、家庭や地域とのより良い連携の推進を目指した。家庭については、「氷高ほっとメール」(教育情報メール)への登録数はさらに増加し連絡体制が良化している。また、1年次の「未来講座HIMI学」や2年次の「探究基礎」「シチズンシップ」においては、氷見を中心とするフィールドワークを取り入れ、身近な地域課題を学びのフィールドとして、物事を探究する姿勢や学ぶ力の育成に取り組んだ。各学科の課題研究やボランティア活動等においても地域との連携を深めた。

## 7 次年度へ向けての課題と方策

次年度より新学習指導要領が本格実施される。通常授業において「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業の質的改善を図り、さらに校内研修に加え外部講師招聘を通して、ICT機器を活用した授業等に関する研修の機会を拡充することで教員の指導力向上を図っていきたい。また、多くの活動の場面において、生徒が学びの記録の蓄積と他者評価を実施し、他者との関わりの中で自分の言動を反省して、自己理解と自己有用感の涵養に努めさせたい。そのことで、本校生徒の所属意識と矜持をより一層高めていきたいと考える。

「地域との協働による学習活動」は、新学習指導要領が目指す「学びに向かう力」を育むために、身近な地域課題を題材にして自ら問いや仮説を立て検証して思考することを繰り返しながら、主体的に学ぶ取り組みである。生徒一人ひとりの進路の実現にもつながり、地域の方々と協働しながら探究学習を進め、課題発見や問題解決に必要な能力を育む学びとなるよう工夫し、さらなる指導の充実とマネジメントが課題である。

8 学校アクションプラン

令和3年度 氷見高等学校アクションプラン - 1の1 -																																	
重点項目	学習活動（生徒の主体的な学び）																																
重点課題	授業及び家庭学習への意欲の醸成																																
現 状	<p>①【家庭学習時間】 本校では、1学期と2学期の期末考査中の学習時間調査を全学年全学科の生徒を対象に実施している。過去3年間の結果を下表に示す。昨年度の結果は過去2年前よりはかなり上回っており、考査期間中は学習する習慣が定着しつつあるともみえる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">学 科</th> <th colspan="2">普通科</th> <th colspan="2">専門学科</th> </tr> <tr> <th>平日2時間以上(%)</th> <th>休日3時間以上(%)</th> <th>平日2時間以上(%)</th> <th>休日3時間以上(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2学期末考査期間の学習時間</td> <td>73</td> <td>73</td> <td>40</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>68</td> <td>64</td> <td>36</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>81</td> <td>80</td> <td>52</td> <td>53</td> </tr> </tbody> </table> <p>しかし、平常授業期間の予習復習の現状を見ると、家庭学習時間は十分とはいえない。</p> <p>②【専門学科検定合格】 専門学科では、教科の学習に加え、専門性を高める各種検定の取得を重視する指導を行っている。昨年度の実績は下表の通りとなった。</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>農業科学科</td> <td>卒業時に検定取得平均8.1種目</td> </tr> <tr> <td>海洋科学科</td> <td>食品技能検定Ⅰ類80%および水産海洋技術検定合格率60%</td> </tr> <tr> <td>ビジネス科</td> <td>卒業時に全商検定1級合格のべ125件</td> </tr> <tr> <td>生活福祉科</td> <td>家庭科技術検定1級合格者のべ53名</td> </tr> </tbody> </table> <p>昨年度はどの学科も目標値を達成することができているが、生徒が異なるため、今年も昨年度と同じ目標値を設定し、全学年で積極的に検定に挑戦させたい。</p>	学 科	普通科		専門学科		平日2時間以上(%)	休日3時間以上(%)	平日2時間以上(%)	休日3時間以上(%)	2学期末考査期間の学習時間	73	73	40	34	平成30年度	68	64	36	25	令和元年度	81	80	52	53	農業科学科	卒業時に検定取得平均8.1種目	海洋科学科	食品技能検定Ⅰ類80%および水産海洋技術検定合格率60%	ビジネス科	卒業時に全商検定1級合格のべ125件	生活福祉科	家庭科技術検定1級合格者のべ53名
学 科	普通科		専門学科																														
	平日2時間以上(%)	休日3時間以上(%)	平日2時間以上(%)	休日3時間以上(%)																													
2学期末考査期間の学習時間	73	73	40	34																													
平成30年度	68	64	36	25																													
令和元年度	81	80	52	53																													
農業科学科	卒業時に検定取得平均8.1種目																																
海洋科学科	食品技能検定Ⅰ類80%および水産海洋技術検定合格率60%																																
ビジネス科	卒業時に全商検定1級合格のべ125件																																
生活福祉科	家庭科技術検定1級合格者のべ53名																																
達成目標	<p>① 定期考査1週間前からの家庭学習の時間 普通科 平日2時間以上           休日3時間以上 専門学科 平日1時間以上           休日2時間以上 いずれも70%以上</p> <p>② 専門学科検定合格状況 (農)卒業時に取得検定平均7種目以上 (海)食品技能検定第Ⅰ類、水産海洋技術検定の合格者60%以上 (ビ)卒業時、全商検定1級合格100件以上 (生)家庭科技術検定1級合格者50名以上</p>																																
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は調査期間を考査中に限らず、考査1週間前から広げることで、日常的な家庭学習の必要性を生徒に意識させ、学習習慣を徐々に身につけさせる。</li> <li>担任はアンケート調査や個人面接等で生徒の実態把握に努め、生活リズムの改善や各自の進路目標達成に向けての学習意欲の向上を促す。</li> <li>授業中にスモールステップでの小テストなどを重ねることで、予習の習慣を定着させるとともに、学習による達成感を得させる契機とする。</li> <li>年2回実施している互研授業週間において、ICTの活用や「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善の研修を行い、生徒の主体的な学びを引き出す工夫を全教員で行っていく。</li> </ul>																																
達成度	<p>① 2学期の家庭学習時間結果 普通科 平日2時間以上79%、休日3時間以上72% 専門学科 (平日2時間以上44%、休日3時間以上36%)           平日1時間以上81%、休日2時間以上63%</p> <p>② ・農業科学科 10.4種目 目標達成 ・海洋科学科 食品技能検定第Ⅰ類55%、水産海洋技術検定60% (目標達成) ・ビジネス科 のべ88名 ・生活福祉科 66名 (1/24現在) 目標達成</p>																																
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>1・2学期とも期末考査の1週間前から学習時間の記録用紙を配付し、毎日の記録をとらせた。考査期間に限らず、継続的に家庭学習時間の記入を行い、担任がチェックをしている学年もあり、普通科では徐々に家庭学習時間が増える傾向が見られた。</li> <li>ホームルームやキャリアデザイン等の時間において、進路実現の過程で、検定を取得する意義について、具体的に理解させた。</li> <li>知識や技能の定着を図るため、個別指導や学び合いの機会を持ち、放課後補講を適時設定して実施した。</li> </ul>																																
評 価	<p>① B</p> <p>② B</p>																																
学校関係者の意見	<p>専門学科の学習時間において、前年度の意見が反映されていることは素晴らしい。第三者が見てもわかるように対処されている。</p> <p>検定についての学習は、生徒にとって意味のある取り組みとなっており、今後も継続してほしい。</p>																																
次年度へ向けての課題	<p>新学習指導要領で重視している「主体的に学びに向かう態度」が、家庭学習の習慣にもつながっていく。日々の授業改善やタブレットを利用した学習、探究活動など、生徒の学習意欲を喚起する方策を模索していきたい。</p> <p>今年度は、一人一台タブレットの導入により、ICTを利用した指導が日常的に取り入れられてきた。今後もクラウドサービスを利用した課題設定や学習指導を工夫してより、効果的に検定合格への挑戦を続けていきたい。</p>																																

( 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった )

令和3年度 氷見高等学校アクションプラン - 1の2 -

重点項目	学習活動（教科実践 教員の活動）	
重点課題	ICT活用による学習・生活指導力の向上と地域協働による学びの魅力化	
現 状	<p>【ICT活用について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染拡大防止の臨時休校に伴い、教育クラウドの利用が急速に進められ、本校はG suite for educationをプラットフォームとして、昨年度よりGoogle Classroomの運用を始めた。オンラインによる授業やホームルームの実施、家庭学習のサポート等、これまでとは異なるツールによって生徒への指導ができるよう教員のICTリテラシー向上が急務となっている。</li> <li>・今年度は生徒一人一台のタブレット端末が配備される予定であり、その効果的な運用が求められる。</li> </ul> <p>【地域協働による学びについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校は、令和2年度文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」事業特例校及び富山県教育委員会「未来人材育成事業」の指定を受けている。氷見市「ひみ教育魅力化会議」等、関係機関及び民間事業者の多くの協力を得て、令和2年度「未来講座HIMI学」にのべ63人の外部人材の協力を得て、新学習指導要領が目指す学びのプロセスのうち「学び方を学ぶ」「生きる力を育む」探究学習を実施することができた。生徒の講座に対する満足度は90%と高く、今年度は1学年の「未来講座HIMI学」に加え、2学年普通科での「人間探究基礎・数理探究基礎」及び「シチズンシップ」でもその取り組みを引き継ぐ。探究学習の学びの価値を校外で共有しながら周知を図るとともに、カリキュラム構成や評価方法等も新学習指導要領が目指す方向性に鑑み、磨き上げていく必要がある。</li> </ul>	
達成目標	<p>① 授業担当者が、主体的に教育クラウドを利用し、オンライン授業やWebテスト等による指導ができる。・・・100%</p> <p>② 授業で「主体的で対話的な深い学び」の実現に向けてICTを活用する方法を教員が研究し実践する。(研究・実践した教員割合)・・・70%</p> <p>③ 「地域協働学習」を通して「地域と一体になった学校づくり」を推進し地域との協働体制の確立に努める。生徒が地域をフィールドに学び、地域の方々と共に課題を発見したり解決に向けて努力したりすることで地域づくりに関わる。(取り組みに対する、生徒および地域の協力者の満足度)・・・80%</p> <p>④ 地域における「地域協働学習」の認知度を高め、相互にとって価値のある取り組みを一層広げるよう努力する。</p>	
方 策	<p>① オンラインでの授業にも対応できるよう教員の教育クラウド利用研修会を実施する。</p> <p>② 互研授業週間にICTを活用した研究授業を計画し、研究授業の参観によってすべての教員間で授業展開の研究を進める。</p> <p>③ 地域学習支援員(氷見市地域おこし協力隊)を中心に氷見市地域振興課の協力を仰ぎ、「未来講座HIMI学」及び「人間探究基礎・数理探究基礎」「シチズンシップ」においても外部人材との連携を密にする。</p> <p>④ 「地域協働学習」を柱に「総合的な探究の時間」の指導計画をまとめ、趣旨等共通理解のもと探究学習が進められるよう教員も協働し学習する組織を実現する。</p>	
達 成 度	<p>① ICT校内研修会への参加率は活用基本のため37%(常勤の教員54名中20名)だが、1・2学年ではオンライン授業を実施するなど、ほぼ全教員がICTを活用した授業展開ができる状況である。</p> <p>③ 地域協働学習において生徒と関わってくださった外部の人の延べ人数は204人であった。(令和2年度63人)また、地域協働学習に対する生徒および地域の協力者の満足度は93.5%と高い評価を得ることができた。</p>	<p>② 互研授業週間を実施し、ICTを活用した授業を計画・実施し、全ての教員が参観した。</p> <p>④ 今年度より2学年にわたり探究学習を進めることになり、企画部と学年が協力して探究学習を進めることができた。</p>
具体的な取組状況	<p>① クラウドサービス利用研修会の実施。オンライン授業の実施(9月中旬)。</p> <p>③ 1学年「未来講座HIMI学」、2学年「探究基礎」・「シチズンシップ」において、地域の方々に大いに協力していただき、探究学習を進めることができた。</p>	<p>② 互研授業週間に研究授業の参観によって全ての教員間で授業展開の研究を進めた。</p> <p>④ 1学年「未来講座HIMI学」、2学年「人間・数理探究基礎」・「シチズンシップ」それぞれにおいて、生徒が主体的に探究学習に取り組めるよう、教員間で共通理解をもつよう試みた。</p>
評 価	<p>① B</p> <p>③ A</p>	<p>② B</p> <p>④ B</p>
学校関係者の意見	<p>「地域協働学習」の取り組みに対する、生徒および地域の協力者のアンケートで、生徒の意識を調べたアンケート項目はよい観点だと思う。結果を掲載すれば多くの方に見てもらえる。また、他校より優れていると判断できるものであればなお良い。</p> <p>ICTの活用では、すべての先生方が対応できているとのことだが、導入の問題点を整理したい。</p>	
次年度へ向けての課題	<p>今年度より生徒一人一台タブレット端末の配備がされた。ICT活用は社会的要請であり、教員のICTスキル向上の取組をさらに進める必要がある。「地域との協働による教育」は、2つの学年での展開の2年目となり、今年度の反省を踏まえさらなる指導の充実とマネジメントが課題である。</p>	

( 評価基準 A : 達成した B : ほぼ達成した C : あまり達成しなかった D : 達成しなかった )

令和3年度 氷見高等学校アクションプラン ー2ー

重点項目	学校生活（心身ともに健康で充実した高校生活）		
重点課題	「誇りに思える氷見高校社会」「安心して過ごせる氷見高校社会」の構築に向けての社会観と健康を大切にする意識の育成		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>さわやかな挨拶を交わし合える学校を目指し、定期的に「あいさつ運動」を行っているが、挨拶の価値を心から意識して行う生徒はまだ少ない。また、制服の着こなしや校内における携帯電話の取り扱いに関しても、一部には意識の低い生徒が見られる。「誇りに思える氷見高校社会」を創造することで、自己有用感を持って学校生活を送ることができるようにする必要がある。</li> <li>人間関係における不安や悩みは、常に注視すべきことである。「安心して過ごせる氷見高校社会」を創造するという視点で、自己の向上に邁進する学校生活を安定して送ることができるようにする必要がある。</li> <li>一般的に高校へ入学すると、部活動を優先してしまい、健康管理が疎かになる傾向があるため、自立的な健康管理の意識付けを行う必要がある。特に、歯科検診では、本人が不調を感じていない場合に受診せずに済ませてしまい、治療率が向上しない現状がある。</li> </ul>		
達成目標	① 挨拶・服装・交通マナー・携帯電話の取り扱い等の規範意識の向上	② いじめ撲滅等、「安心して過ごせる氷見高校社会」に関する意識の向上	③ 歯科治療率アップのための働きかけ
	生徒意識調査における挨拶や服装等に係る意識率 95%以上	生徒意識調査における「安心して過ごせる氷見高校社会」の創造に対する意識率 100%	歯科治療率 50%以上
方 策	<p>① 「誇りに思える氷見高校社会」をキーワードに、県下一斉による年1回の「さわやか運動」、本校独自による各学期初めの「氷高さわやかウィーク」や年6回の「氷高さわやかデイ」の取り組みにおいて、挨拶の意義を事前指導し、挨拶の価値を意識させながら実施する。また、校風委員会及び交通委員会等の委員会活動として取り組ませることで、生徒の主体性に基づき、「挨拶の励行」「交通安全（自転車乗車マナー等）」「校内における携帯電話の取り扱いについて」など社会的マナーの向上に努める。</p> <p>② 「安心して過ごせる氷見高校社会」をキーワードとして、様々な活動を展開する。具体的には、生徒集会等で「命の尊重」を訴えるとともに、学期ごとを基本にアンケートを実施することで、人間関係に関する悩みや問題行動を早期に把握する。さらに、得た情報をもとに、迅速かつ周到に対応する体制を構築する。</p>		③ <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者会の際に歯科治療カードを再度配布し、長期休業中などに治療するように促す。</li> <li>部活動の保護者会などにおいても、保護者から生徒に声をかけていただくようお願いする。</li> <li>治療を要する永久歯があるにもかかわらず、長期休業中に治療しない生徒には、面談などを通して理由を確認し治療を促す。</li> </ul>
達 成 度	① 社会規範の重要性を意識している生徒の割合 96.8%	② 安心して過ごせる氷見高校社会の創造を意識して生活している生徒の割合 96.1%	③ 歯科治療率 41%
具体的な取組状況	<p>① 今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「高校生さわやか運動」を縮小しPTAのみの協力を得て実施した。校内で学期初めに「さわやかウィーク」月の初めに「氷高さわやかデイ」を実施した。</p> <p>② いじめに類する行動について生徒を注意深く観察するとともに、定期的に全体指導といじめ等の被害に対するアンケートを実施し、職員間の連携と情報共有を図りつつ、きめ細かな指導を実施した。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者会の際に、歯科治療カードを再度配布し、保護者に協力をお願いした。</li> <li>大学受験や就職試験が終了した3年生に個別に確認し、治療を促した。</li> <li>各クラスの担任からも声をかけてもらった。</li> </ul>
評 価	① A 校外外での挨拶・服装等の社会規範に対する生徒の意識は概ね良好である。	② B いじめやそれに類する行為には、学校全体の協力体制のもと対応できている。	③ C 受診率は4割を超えて過去の3割台を上回ったが、歯垢など自覚症状のないものは放置されがちである。
学校関係者の意見	生徒全体が明るい雰囲気、挨拶はもちろん、女子生徒がズボンを着用していても何の違和感もなく、ジェンダーへの対応は良い。また、身だしなみが良くなった。マスクをしていて社会人と区別がつかないほど生徒が大人びて見えた。		生徒保健委員会などで取り上げて対策を考えてはどうか。
次年度へ向けての課題	<p>① 社会規範の遵守に加え、氷見高校生の矜持をもって主体的に行動する心の啓蒙の在り方を検討する。</p> <p>② 生徒が安心して学習その他の活動に取り組むことができるよう、いじめの防止等の対策を研究する。</p>		③ コロナ感染状況や受験・就職などにも影響されるので、タイミングを見ながら声をかける。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった)

令和3年度 氷見高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援（生徒の進路実現と進路指導）	
重点課題	進路意識・知識の強化と組織的な進路指導力向上の取り組み	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路決定の方策（入学試験、就職試験など）に対する基礎的、基本的な知識量に課題がある。進路学習等、進路実現に向けた生徒の主体的な活動ペースを向上させる必要がある。</li> <li>・1～2学年の進路学習の機会は、タイトなスケジュールの中で限られている。生徒自身が進路について継続的に考え、高い志を持って進路実現に挑戦する生徒を育成する体制強化が重要である。</li> <li>・3学年は、5学科それぞれの特性と個々の生徒が培ってきた様々な学力が、進路選択と受験にメリットとなるよう、学年、教科、各部署との連携をより密にする必要がある。</li> <li>・受験情報の収集、保護者との連携など、進路指導技術を蓄積・向上させる体制作り必要がある。</li> </ul>	
達成目標	① 進路実現の手立てについて、生徒の理解と主体的な行動の促進 ・「進路とその実現過程を考え、主体的に行動している」と自己評価する生徒の割合 1学年＝60%以上、2学年＝75%以上	② 進路関連行事や個人面接等の充実と進路意識の高揚 ・生徒が感じる面接等の満足度 70%以上 ・生徒進路委員会の活動 8回以上
	③ 進路希望の実現 （第3学年 進学希望者） ・3年9月進路希望調査(校種)に対し 普通科：第一志望達成率 70% 専門学科：第一志望達成率 80%	④ 進路希望の実現 （第3学年 就職希望者） ・就職希望者の就職内定率 100%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的な進路指導を行うことで、早期に自己の適性の理解及び将来設計を具体化させ、意欲的に学習ができるように指導する。</li> <li>・進路に関するホームルームを実施し、より効果的な系統指導プログラムを作成して、学年全体での計画的な指導体制の共有化を図る（進路統一ホームルームを年3回程度実施）</li> <li>・各学年と連携し、3年間を見通した進路指導を行う。                      1年次・・・「進路講話」「職業人から学ぶ」「文理選択」「進路ガイダンス」「卒業生と語る会」他                      2年次・・・「大学等見学」「修学旅行(班別研修)」「卒業生と語る会」「インターンシップ」他                      3年次・・・「進路ガイダンス」「オープンキャンパス」「就職説明会」「企業見学」「進学検討会」他</li> <li>・「面接重点期間」を設定し、複数教員で情報共有を図る体制を推奨、実践する。</li> <li>・学力と進路情報を教員間で共有する。Google classroomによるアンケート調査等を行う。</li> <li>・進路意識の高揚につながる取り組みとして生徒による進路委員会の活動を推進する。</li> </ul>	
達成度	① 「進路実現の手立て」への理解と行動 進路希望調査(9月→1月)で「進路実現のため自ら考え必要な行動を取っている」と回答 1学年＝46%→51%、2学年＝56%→66%	② 進路に関する「個人面接」・進路委員会の実施 ・生徒アンケート(12月)「進路についての指導・面談がよく行われている」1年 86% 2年 86% 3年 96% ・生徒進路委員会の活動 8回
	③ 第一志望(校種)達成率(3月20日現在) 普通科95.6% 専門学科90.5%	④ 就職希望者33名全員内定
具体的な取組状況	① 生徒には進路ガイダンス(1学年)や進路HRを実施するとともに、保護者会での進路説明会(1学期)を開催した。2学年の「大学等見学」やオープンキャンパス参加がコロナ禍で中止・オンライン等になった。	② 「個人面接」は、面接重点期間を設けて取り組んだ。しかし、昨年度より「進路についての指導・面談がよく行われている」と回答した生徒の割合が低下した(R3年度89%←R2年度91%)。生徒進路委員会は、進路関係のVTR上映会を実施した。
	③ 進路希望の実現 国公立大学の合格者32名(3月18日現在)	④ 就職希望者は、公務員も含め全員第一希望どおり内定を得た。
評 価	① D ③ A	② B ④ A
学校関係者の意見	大学入試制度の変更や大学の受け入れが多様化している中で、生徒が主体的に情報を得られるように指導してほしい。進路選択にあたり、自分で調べ、情報収集する力が必要である。専門学科で進学者が増えている。実社会に出ることを選ぶ生徒と、より学びを求めて進学する生徒がいるということに理解した。	
次年度へ向けての課題	コロナ禍が社会変化を加速させている時代である。 ①「進学」について、令和2年度の入試改革により入試の形態は多様化、複雑化が進んだ。大学入学共通テスト導入2年目は、思考力を問うことを目的に理数科目にも多くの文章を読ませる出題が多かった。教員は、生徒の適性を見極め、入試形態を研究してアドバイスをする必要がある。また、共通テストの出題傾向に見られるように、文章や図の読解力育成への注力が必要である。 ②「就職」について、「就職内定率の高さ」の維持はむろん大切であるが、本人の適性、就職後の持続性等、生徒自身が判断していけるように面談と情報提供のあり方を工夫したい。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった)

令和3年度 氷見高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動		
重点課題	コロナ禍における学校行事・部活動及び地域連携活動の活性化		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事は、前年度、コロナ禍で縮小されたため、生徒の満足度は高くなかった。今年度は、改善案も取り入れて生徒会執行部を中心にコロナ禍でも取り組める企画・運営を行っている。全校生徒の参加意識や達成感を高められるよう、生徒の意見を取り入れながら、生徒主体の行事にする必要がある。</li> <li>部活動は、全校生徒の約90%が加入している。コロナ禍での部活動の制限、休養日週2日制の中、限られた時間を有効活用するために、明確な活動計画と集中した時間活用の工夫と生徒が前向きになれるような支援が求められる。</li> <li>ボランティア活動では、前年度、地域の美化活動に限定されていたが、ボランティア推進委員会を中心に家庭クラブやJRC部等とも連携し、身近で今できるボランティア活動に参加する生徒を増やしていく必要がある。</li> </ul>		
達成目標	① 各学校行事の精選と内容の充実	② 部活動に参加することで自己肯定感を高める生徒の増加	③ SDGsに基づくボランティア活動への参加意識の高揚
	各行事に対する生徒の満足度 80%以上	3学年生徒の満足度 80%以上	美化活動、環境保全活動、募金活動への全校生徒の意欲的参加
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 各行事の前に各種委員会の開催や生徒会便りの発行を行い、行事についての実施要項等を周知していく。また、行事後にアンケートを行うことで、生徒の達成感が高まるよう改善点を加え、次年度に活かすよう工夫する。</li> <li>② 部活動で人間性の向上を図ることの大切さを全校生徒に意識させつつ、メリハリのある取り組みを促す。3年生に、アンケートで部活動に対する意識調査を行い、結果を各部顧問に知らせ、前向きになれるよう支援活動に生かす。</li> <li>③ ボランティア推進委員会を中心にSDGsを意識したボランティア活動のポスターの掲示や放送などを通し、全校生徒に積極的な参加を呼びかけるとともにボランティア後の記録や感想を残すなど振り返りの機会を設ける。</li> </ul>		
達 成 度	① 各行事に対する満足度 体育大会90% 氷高祭75%		③他団体との活動124人、 地域の美化活動 64人 エコキャップ・コンタクトレンズ ケースの回収、募金活動、書き損 じはがきの回収、オレンジリボン 運動は実施。 氷見ユネスコ協会・氷見市身体障 害者協会・こども食堂と連携。
	② 部活動に対する満足度（3年対象） 88% 10段階評価の10は31%		
具体的な 取組状況	<p>体育大会では、生徒会執行部が主導し、ソーシャルディスタンスを考慮した競技ルールの見直しを積極的に行い、公平で円滑な運営ができるよう図った。また、氷高祭はまん延防止等重点措置明けのため、規模を大幅に縮小したが、生徒会執行部を中心にコロナ禍でも取り組める企画・運営を行った。部活動では、多彩な部活動を運営できるよう顧問の配置、予算運用等適正に対応した。</p>		
評 価	① B 体育大会は感染防止に基づく新競技の満足度が高かったが、氷高祭は新型コロナウイルス感染対策のため1日開催になり、満足度は高くなかった。		③ B 生徒の意欲的参加が見られ、延べ人数は昨年から倍増したが、活動を振り返る機会を持つことができなかった。
	② A 引退した生徒の満足度は高い。生徒会アンケートの結果（充実度、理由、改善要望）を顧問に知らせる。		
学校関係者の意見	<p>学校行事の満足度が、昨年よりも上がっている。生徒が主体的に企画することによって参画できる満足感も上がる。どのようにやっていけばいいか考えることで課題に対する姿勢が養われる。このような機会を今後も増やしていってほしい。</p>		
次年度へ 向けての 課題	<p>コロナ禍で規模を縮小し、様々な対策を実施しての学校行事であったが、企画から運営まで生徒の主体性を大切にして実施することができた。部活動においては、大会が開催され、生徒たちのモチベーションの向上がみられた。昨年度からの課題である地域に対する貢献を模索する機会としてボランティア活動をおこなった。今後は生徒会アンケートから改善点を見つけ、より多くの生徒が自主的、積極的に学校行事、部活動、ボランティアに参加できるよう企画や運営方法を工夫していく。</p>		

( 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった )

令和3年度 氷見高等学校アクションプラン - 5 -

重点項目	その他（情報発信及び家庭との連携）																
重点課題	適切な情報発信及び保護者との情報共有の推進																
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭との連携を図るために、PTA活動への積極的な参加を呼びかけている。PTA総会への参加保護者は、平成28年に総会後の学年懇談会を実施して以来増えており、平成29年度の保護者の参加率は、38%（6年前の2.17倍）、平成30年度は38.5%、令和元年度は34.2%（前年より4.3%減）であった。令和2年度はコロナ禍のため中止となった。進路に関するPTA研修会（第3学年）への保護者の参加率は令和元年度60.7%（一作年より10.7%減）。令和2年度の3年普通科は80.5%、専門学科も同様の80.5%となり前年より19.8ポイントの増となった。コロナ禍にあってもPTA研修会のニーズは高く、参加率は増加している。そこで、PTA研修会をはじめとするPTA行事について、十分な新型コロナウイルス感染防止対策をとったうえで実施していかなければならない。</li> <li>学校と保護者との情報共有手段として、「氷高ほっとメール」（教育情報メール）の登録を毎年保護者に呼びかけている。保護者の「氷高ほっとメール」に対する理解は深まり、近年の登録率は高い水準で安定している。昨年度は95.3%であった。</li> </ul>																
達成目標	① コロナ禍におけるPTA活動の実施及び不参加者への対応	② 教育情報メール「氷高ほっとメール」の保護者登録率の向上															
	<ul style="list-style-type: none"> <li>安心して参加できる新型コロナウイルス感染防止対策の実施。</li> <li>感染状況を考慮した、書面やリモートなど安全なPTA活動の実施。</li> <li>不参加者への周知の工夫。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>97%以上</li> </ul>															
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事の開催案内の配布、ホームページ、メールでの情報配信を行い、PTA活動への参加を促す。</li> <li>保護者の関心が高いPTA活動においても、新型コロナウイルス感染状況によっては参加しにくい場合もある。感染防止対策をしっかりととり、安心して参加してもらえようとする。</li> <li>感染状況を考慮して、PTA役員と協議のうえ、開催形式について検討する。</li> <li>参加できなかったPTAへ資料配付だけでなく、活動報告、意見、質問事項などを追加し、今後のPTA活動に理解と協力を求める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>合格者説明会やPTA人会式等の機会をとらえ、「氷高ほっとメール」の利用を価値が大きいことをしっかり伝え、保護者の登録を促す。</li> <li>入学以降は、特に1学期を登録推進期間として引き続き保護者に登録を勧める。</li> <li>「氷高ほっとメール」の登録をしても受信許可の設定がされていないか、アドレスに誤りがあるか、届かない保護者には生徒を通じて案内をする。</li> </ul>															
達成度	① 感染対策の徹底、資料の配付、広報を通じた活動報告	② 96.0%															
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA総会（5月15日実施）の参加率は24.7%、一昨年度より9.5ポイント減。PTA研修会参加率1年普通科50.0%、専門学科33.3%（10月9日実施）、2年普通科59.7%、専門学科29.8%（10月2日実施）、3年普通科84.7%（4.1増）（6月26日実施）、3年専門73.5%（7.0減）（5月15日実施）となった。</li> <li>広報（年2回）、学年だより（年4～5回）による行事予定、活動報告、PTAへの働きかけ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登録フォームをHPに掲載した。</li> <li>入学説明会と入学式当日、新入生の保護者に登録をお願いした。</li> <li>「ほっとメール」の発信ごとに新規申込者を登録した。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>登録率</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全体</td> <td>95.3%</td> <td>96.0%</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>97.4%</td> <td>97.1%</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>93.7%</td> <td>97.0%</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>94.9%</td> <td>94.0%</td> </tr> </tbody> </table>	登録率	R2年度	R3年度	全体	95.3%	96.0%	1年	97.4%	97.1%	2年	93.7%	97.0%	3年	94.9%	94.0%
登録率	R2年度	R3年度															
全体	95.3%	96.0%															
1年	97.4%	97.1%															
2年	93.7%	97.0%															
3年	94.9%	94.0%															
評 価	B	B															
	<ul style="list-style-type: none"> <li>5月のPTA総会については感染対策を徹底し開催することができた。3年生については、コロナ禍の進路選択、行事変更等の不安からか、学年、学科別の研修会への興味関心が強くなり、参加率が上昇したと考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度からHPに登録フォームを掲載したことにより、1年生の登録率が97%を超えている。</li> </ul>															
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスが発生して2年となるが、総会、PTA研修会、保護者会等の開催の仕方に工夫がみられた。中でも「PTAと生徒の懇談会」の取り組みは評価できる。ホームページの「保護者の皆様へ」の内容を充実してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登録率は100%にならないものか。設定が難しいといった理由なのか。地道に理解を求め、取り組んでほしい。</li> </ul>															
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウイルスコロナの時代における会の持ち方やリモート会議の利用等、工夫を凝らす必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登録者のうち、一斉メールの受信拒否による不着が数件ある。生徒を通じて許可設定をお願いしているが、なかなか改善されず、改善法の周知を工夫したい。</li> </ul>															

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった）